株式会社ビジネス・ブレークスルー(BBT)
BUSINESS BREAKTHROUGH, INC.

Newsletter Vol.7

CONTENTS:

BBTグループの国際教育・英語イベントニュース特集

EF世界英語力ランキング2018（東アジア比較）			
香港	30位	●	標準的
韓国	31位	●	標準的
中国	47位	●	低い
台湾	48位	●	低い
日本	49位	●	低い

EFが発表した2018年英語能力指数の世界ランキング(※)において、日本人の英語能力は88か国中49位でした。東アジアの近隣諸国と比較すると、日本人の英語力が低い順位となっているのがわかります。

BBTでは、国際教育や日本のビジネスマンの英語コミュニケーション能力向上に貢献すべく多くのイベントを開催しています。その一部を今回レポート形式でご紹介します。

(※出典:EF「世界最大の英語能力ランキング」
https://www.efjapan.co.jp/epi/)

◆国際教育・英語関連のニュース

1. アオバジャパン・インターナショナルスクール(AJIS)
「国際バカロレアに関する国内推進体制の整備」事業を文部科学省より受託
第1回 国際バカロレアに関する国内推進体制の整備事業シンポジウム2018開催レポート
・・・・・ p.2

2. 英語の雑談力を鍛える
PEGL Business Small Talk セミナー　第一弾＆第二弾　開催レポート
・・・・・ p.4

3. BBT 大学　教員ワークショップ 「マナカク！～学び直し革命～」
第4回　青野先生の白熱教室！英語上達の壁をブレークスルーする！
・・・・・ p.5

4. EF　×　BOND-BBT MBA　TEDチャットセミナー共同開催
～英語でディスカッションを行うイベント～
・・・・・ p.6

【BBTについて】
グローバル環境で活躍できる人材の育成を目的として1998年に世界的経営コンサルタント大前研一により設立された教育会社。設立当初から革新的な遠隔教育システムによる双方向性を確保した質の高い教育の提供を目指し、多様な配信メディアを通じてマネジメント教育プログラムを提供。大学、大学院、起業家養成プログラム、ビジネス英語や経営者のための勉強会等多用な教育プログラムを運営するほか、法人研修の提供やTV番組の制作など様々な顔を持つ。2013年10月のアオバジャパン・インターナショナルスクールへの経営参加を契機に、生涯の学習をサポートするプラットフォーム構築をグループ戦略の柱の1つとして明確に位置づけている。在籍会員数約1万人、輩出人数はのべ約5万人以上。
http://www.bbt757.com/

―本件に関するお問い合わせ先―
株式会社ビジネス・ブレークスルー　広報担当　吉田
TEL:03-6271-0757　FAX:03-3265-1381
E-mail : bbt-pr@bbt757.com

アオバジャパン・インターナショナルスクール(A-JIS)
「国際バカロレアに関する国内推進体制の整備」事業を文部科学省より受託
第1回 国際バカロレアに関する国内推進体制の整備事業シンポジウム2018開催レポート

アオバジャパン・インターナショナルスクール(以下、アオバ)は、この度、「平成30年度　国際バカロレア(IB)に関する国内推進体制の整備」事業を文部科学省より受託しました。その受託団体として、「文部科学省IB教育推進コンソーシアム」を形成して文部科学省やIB機構等の関係者間での情報共有を図るとともに、IB導入を検討する学校等に対する支援やIB教育の効果に関する調査研究を最長5年に渡り実施します。

「文部科学省IB教育推進コンソーシアム」等の運営にあたっては、アオバにおけるIBカリキュラム、授業、教材、教員研修プログラムや、BBTが運営するビジネス・ブレークスルー大学で実績のある、オンラインとリアルを融合させた「ブレンディッドラーニングモデル」での運営を予定しており、社会的な認知拡大のため、IBに関するICTプラットフォームの構築とともに、リアルのシンポジウム等も運営いたします。

10月14日(日)には、本コンソーシアム創設を記念し「第一回国際バカロレアに関する国内推進体制の整備事業シンポジウム2018」(場所:文部科学省3階講堂)が開催されました。このシンポジウムでは、IB教育に関心のある教育機関、教育者、保護者、学生、自治体関係者等、450名 にもおよぶ幅広い方々が参加し、「IB教育の効果」や「日本の教育機関におけるIB導入ついて」等、講演やディスカッション等を通じて、情報共有と意見交換が行われました。

【挨拶】 アオバジャパン・インターナショナルスクール理事長　柴田　巌(しばた　いわお)氏

『この度、アオバは文科省コンソーシアムの事務局を運営することになりました。次の5年間でIB校を200校に増やすべく、IB教育の真の価値や課題感の共有の仕組みづくりに加え、広報活動、イベント等の運営も行って参ります。リアルな活動に加えて時間や場所の制約を受けずに教育関係者が情報を共有できる、「エアキャンパス」というICTプラットフォームも運営して参ります。事務局の立場から様々な支援をし、IB教育の普及に貢献していく所存です。』

【特別講演～導入事例の紹介～】高知県立高知西高等学校副校長　高野　和幸(たかの　かずゆき)氏
群馬県 太田市長　清水 聖義(しみず　まさよし)氏

高野氏:『高知県は現状少子高齢化・過疎化・地域産業の衰退が危ぶまれており、産業振興計画に県をあげて取り組んでいます。このような中、**高知県が必要とする課題解決力が身についた人材の育成や、どこに住んでいても活躍ができるグローバル人材の育成に取り組むことになったのが高知でIB認定校を目指す背景です。**
準備にあたっては、すでにIB教育の導入校からアドバイスをもらい、DP最終試験用の防音教室やホワイトボード仕様の壁紙の教室を作ったりなどしました。高知県内からIB教育を受けたことに誇りを持つ生徒がこれからたくさん育ってくれたら嬉しいです。』

清水氏:『**自治体の長が率先してIBのような学校づくりを推進していくことが重要**だと考えている中で、群馬県内に英語で授業をする学校があってもよいのではないかと、ぐんま国際アカデミーを立ち上げ、現在理事長を務めています。教科書をすべて英語に翻訳することや教員の確保など多くの苦労もありましたが、現在1000人ほどの子供たちが学んでいます。教員は約100名ですので10人に一人先生がいるような環境です。外国の雰囲気が漂う環境の部屋があってもいいのではないかと理科室や音楽室のように「英語室」を作るなどの工夫もしました。日本の人口はどんどん減っていきますし、これからは**世界と付き合っていける子供を育てることが大切だと思います。**英語による教育を受けつつも日本人としてのアイデンティティを持った人がこれからどんな活躍をするのか楽しみです。』

【パネルディスカッション】　DP修了生＆保護者　×　教師

DP(ディプロマプログラム)の修了生で現在大学に通っている2名の学生とそのお母様が壇上に上がり、教師からの質問に答えました。

DPを受けた感想は？
-これまでは知識の量を増やすことが大事だと思っていたが、**知識を活用してそれに独自性を加えることの大切さを学ぶことができた。**
-単に先生の話を聞くだけでなく、**自分が好奇心あるものに主体的に取り組んだことで日常生活と学んだことがつながる場面が多くあった。**
-(保護者)国内の大学に進学しようと決めた際に、DPの最終試験と時期が重なり修了までに苦労もあったが、**これまでとは違う視点でニュースを見れるようになるなど**子供の成長を感じた。

【基調講演1】「IB200校への期待と展望」
国際バカロレア日本大使　坪谷　ニュウエル　郁子（つぼや　にゅうえる　いくこ）氏

『今回発足するコンソーシアムは認定校を増やすためだけのものではありません。**学生、保護者、教員、大学関係者や研究者の皆様など国際バカロレアに関連する課題を皆でディスカッションする場**でもあります。

IB教育を受けた生徒は偏差値に見合うからという理由で進学先を選ぶのではなく、「もうすぐ石油が枯渇するかもしれない。砂漠地における農業開発をやってみたいから農学部に進学しよう」「目が不自由な人でも楽しめるゲームを開発したいから台湾でゲーム機の開発をやろう」など、**自分の好きなことや得意なことを通じて社会に貢献できる道を選ぼうとします。**

「educate」は、ラテン語の語源においてはそれぞれの良さを「引き出す」という解釈になります。**IB教育が将来の日本の教育のロールモデルの一つとなり、**この国で教育を受けてよかったと思える子供たちが一人でも多く育つことを期待しています。」

【基調講演2】「保護者視点から考えるグローバル人材とIB」
キリロム工科大学学長　猪塚　武氏（いづか　たけし）氏

『私が学長を務めるカンボジアのキリロム工科大学は、英語が堪能かつ最先端のIT技術を有する人材を育てています。

今、アメリカのGAFA(※)などの企業があらゆる国の産業を混乱させている第四次産業革命が起きていますが、その**最終形に最も先に到達するにはどうすればいいのかを目指す大学**を作りたいとの思いからキリロム工科大学を設立しました。貧富の差に寄らずに子供たちに教育を受けさせたいので**学費を無料にしていますが、その分入学の倍率が高くなっています。**また、カンボジアの国立公園の中に校舎を作ったことで自然と人間の融合も目指しています。

私には3人の子供がいますが、IB教育を受けたらどう育つのか実験をしてみました。次女はまだカンボジアのIB校にいますが、上の2人の子供たちは無試験で世界ランク100位以内の大学に進学することができましたし、全員英語が飛躍的に上達しました。 IBは、国を変えてもカリキュラムの継続性があることも良いと思います。

海外の大学に英語力が不十分なまま入って4年間でやっとできるようになって帰ってくるのでは遅いと思います。授業についていくためにも入学前から英語ができるようになる教育が今後日本でも広がってほしいと思います。』

※米国を代表するIT企業のグーグル(Google)、アップル(Apple) 、フェイスブック(Facebook) 、アマゾン(Amazon)の4社。

【基調講演3】「IB教育を通じてどのような生徒が育つのか」
IBアジア太平洋地域日本担当開発マネージャー　星野　あゆみ（ほしの　あゆみ）氏

『IB教育の卒業試験は例えば歴史であれば、「**異なる地域の2か国における冷戦の社会的影響を比較しなさい。地域は自分で選んでよい。**」といったような記述問題が出題されます。生徒は授業や自己学習等で学んだことを活かしながら自分が言いたいことを論理的に表現するという力が必要になってきます。
ただの暗記ではなく、そういう問題に取り組む生徒が育つため、海外の大学ではIB教育を受けた生徒を入学させたいというところが多いといいます。IB教育を受けた生徒は、幅広い教養・批判的思考力・コミュニケーション力等の大学が求めるスキルを入学時から持っている場合が多く、大学進学後も卒業率や成績が高い傾向があるそうです。IB生に対する奨学金などの優遇措置があるところもあります。

ある日、外国人のお客様が来る際に生徒に短い学校の紹介動画を作るように言いました。完成したものを持ってきた生徒は「先生、著作権が気になったので、音楽は作曲しました。」と言いながら動画を提出してくれました。作曲ができることはさることながら、著作権まで気にしていたことに驚きました。

授業内だけでなく、**日頃の生活での不満や不便についての課題発見や解決をしようとする生徒**や、プレゼンをする際に**聞く相手の学年などによって内容をわかりやすい表現に変える生徒**など、**IB教育では社会で求められる力や大人に対しても問題提起ができる力がつく生徒が育つのだと感じる場面が沢山あります。**

積極的に学びながら、自分はより良い世界を作ることに貢献できると自信を持った子供たちが育つIBプログラムが、今後ますます広がることを期待しています。』

英語の雑談力を鍛える
PEGL Business Small Talk セミナー　第一弾＆第二弾　開催

「実践ビジネス英語講座～Practical English for Global Leaders～（大前研一監修、以下PEGL[ペグル]）」は2018年4月1日に講座開講10周年を迎えました。PEGLは、単なる英語習得ではなく、国際ビジネスの場で結果を出せるコミュニケーション力をビジネスパーソンに身に着けてもらいたいとの思いから生まれたBBT大学オープンカレッジのオンライン講座の一つです。英語力の他に異文化理解やEQなどの「グローバルマインド」、ロジカルシンキングや発想力などの「考える力」、グローバルで通用する実践的な「伝える力」も培うことできるプログラムであり、2008年の開講以来10,000人以上が受講しています。

10月1日、PEGLは英語での雑談力を鍛えることを目的とした「ビジネス・スモールトークコース」を開講いたしました。コース開講を記念して、リアルの場でのスモールトークセミナーを2回に渡り開催いたしました。

第一弾　2018年6月22日（金）開催：講師　木内裕也（きうち　ゆうや）氏

PEGL「ビジネス・スモールトーク講座」のメイン講師を務める、アメリカ在住の同時通訳者である木内氏がセミナーに登壇しました。
木内氏は、『**スモールトークは本題に入る前にお互いを知るためのコミュニケーションであり、肝心の本題に影響を与えうるもの。自分の魅力を伝えると同時に他人の魅力も理解することや、相手を大切思うことを心がけることが何よりも大切**』と参加者に語りかけました。そのうえで、いざスモールトークを行う際に、避けるべき内容についても解説しました。

実践編では、参加者25名が1グループ3～4名に分かれて、英語での自己紹介、他人の自己紹介を聞いた人による”他者紹介”のロールプレイ、なるべくたくさん会話のキャッチボールができるような質問を出し合うなど参加者たちが英語でディスカッションを交わしました。
木内氏はグループを回り「**会話が独りよがりにならないように相手と違うところだけでなく共通点を探すことも大切**」や「**この人はこういう人だという推察はしないで、ポジティブな話を心がけるとよい**」などアドバイスを行いました。

最後に、**自分なりのスモールトークのスタイルを確立することや、コミュニケーションの文化の違いもあるので日本とアメリカにいるときで自身のキャラクターを変えるのもよい**と締めくくりました。

第二弾　2018年11月15日（木）開催：
フィリピン人講師　　ダフネ・デリオン氏 / マリー・カラヤン氏 / ウェン・デイソン氏

フィリピン人講師3名によるビジネススモールトークセミナーには、約30名が参加しました。

今回のセミナーのために来日したフィリピン人講師は、ビジネス特化型オンライン英会話~~講座~~「BBTオンライン」で講師を務めています。また、いずれも大学では教育を専攻しており、教員、秘書、政府機関の地方立法担当者など多様なビジネスのバックグラウンドを持っています。

実践編が始まると、”**相手の話を引き出すことを意識をすることや国際・時事トピックを活用して会話を発展させると良い**”というPEGL事務局からのアドバイスをもとに参加者同士で文化の違いについての経験談・失敗談や日本のオフィス事情について英語でコミュニケーションを交わしました。1グループ10名程度に分かれたグループを講師が1名ずつ担当し、講師は参加者の話を聞きながら、個別に指導を行ったりホワイトボードを使って全体に向けた説明などを行いました。

セミナー参加者は「**スモールトークを行う上で、価値観の違いを把握して話すことの大切さを学ぶことができた**」と話しました。

BBT 大学　教員ワークショップ 「マナカク！～学び直し革命～」
第4回　青野先生の白熱教室！英語上達の壁をブレークスルーする！

BBT大学は11月11日より週に1度 「マナカク！～学び直し革命～」と題したワークショップを麹町キャンパスで開催しています。今回は第4回目のBBT大学青野仲達[あおの　ちゅうたつ]教授の英語編をレポートします。

●実戦で通用する英語力を身に着けたい方向けのセミナー

今回のセミナーは英語学習をする中で伸び悩んでいる方やどのような学習方法が効果的なのかわからない方など、英語学習全般に関する悩みに応えるべく、長年日本人の英語教育に携わってきた青野教授が登壇しワークショップを開催しました。

青野教授はハーバード大学経営大学院でMBAを取得後、イングリッシュタウンの創設やマンツーマン英会話のGABAで代表取締役として上場を果たした経歴を持っています。国際舞台で必要となるのは、いかに自分の意見を相手に伝えられるかであるという信念のもと、BBT大学においては実戦で通用する英語のカリキュラムを設計しました。担当するReading・Writing科目の受講者からも「単なる英語学習でなく論理的に文章を構成する力が身についた」とその教授方法と丁寧なフィードバックが学生から好評を得ています。

●英語学習のポイントとは

青野教授：『英語上達の壁は登山における樹海のようなものだと思っています。英語力の上達を目指すには、**①基礎力②説明力③説得力が必要**ですが、基礎力の部分で右往左往している状態が樹海にいる状態です。**基礎力固めはここまでと自分の中で決めて、そこから説明力をつけるためのトレーニングをすぐに始めたほうが良い**でしょう。
読む=基本、聞く=手本、書く=台本、話す=本番と考えます。実戦の場では自身の考えを伝えることで**自分の存在に付加価値が与えることができる**でしょう。構造自体がしっかりしていればシンプルな表現でも説得力を持たせることができます。**序盤・中盤・終盤に分けた5行エッセイでトレーニング**をすることを薦めます。』

●「春夏秋冬で一番好きな季節とその理由を英語の5行エッセイで伝えてください」

序盤に言いたいこと「私はこの季節が好きだ」、中盤に理由を３つ、そして終盤に「以上の理由で私はこの季節が好きだ」とまとめます。参加者からの回答を青野教授が集める際、なるべくシンプルな表現にしましょうとアドバイスを行いました。参加者の男性は「英語を話す際は、難しい表現を頑張って使う必要がないんだと実感しました。今後もトレーニングを重ねて自分の意見を論理的に伝えるようになりたい」と話しました。

「マナカク！～学び直し革命～」とは？

「人生100年時代」というキーワードが様々なメディアで取り上げられる中で、「学び直し」や「リカレント」といった単語を目にする機会も増えています。答えのない時代の中で成果を出し続けていくためには、学び直しを続け実践していくことが重要とBBT大学は考えています。

BBT大学の『マナカク！～学び直し革命～』とは、単なる学び直しの手法の紹介ではなく、ビジネスの現場で結果を出し続けるために自分自身に革命(変化)を起こす学びが体験できる場です。一般的なセミナー形式で講師の話を聞くだけではなく、参加者は手を動かしアウトプットをすることで、教員から直接フィードバックを受けられます。

経営にまつわる各要素はもちろん、英語、IT、教養等の幅広い分野など幅広い分野をテーマに毎週開催しています。

下記のテーマについては現在youtubeにて一部内容が公開されています。

URL　：https://www.youtube.com/playlist?list=PLhNjt4rsoCGEIYieJqzINFQHjtoaZvi_n

11/11[日]開催　マーケティングの今 ―消費者インサイトのありか―　講師：菅野 誠二先生

11/15[木]開催　リスニング力強化に直結する英語発音のコツ　講師：竹村 和浩先生

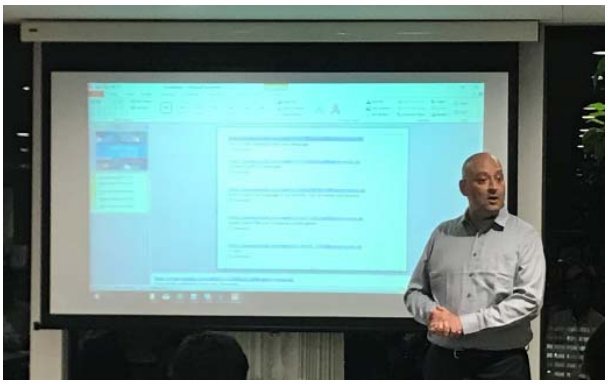
11/22[木]開催　中国のキャッシュレス社会を題材に「ビジネスアイディア」を創る　講師:劉 源先生

12/12[水]開催　転職検討者、就活生向け！人生100年時代に向けて、財務諸表で会社の寿命を診る　講師：大原 達朗先生

12/19[水]開催　世界のビジネスエリートに浸透する創造的な問題解決の手法！デザイン・シンキング体験ワークショップ
講師：市角 壮玄先生

EF × BOND-BBT MBA TEDチャットセミナー共同開催
～英語でディスカッションを行うイベント～

オーストラリアのBOND大学とBBTがパートナシップによるオンラインMBAプログラムのBOND-BBT MBAは、留学プログラムを提供するEF社と、「TEDチャットセミナー」を共同開催しました。TED Talksに投稿された英語のプレゼンテーションをピックアップし、スクリーンで鑑賞(ビューイング)後に参加者同士で英語でのディスカッションを行うイベントで、これまで2回開催されています。



ファシリテーターを務めたBBT大学のアンドリュー・アビー教授

今回のテーマは、
"Learning a foreign language"

英語をはじめ外国語を学ぶことは、**試験や仕事のためだけでなく、自分の世界を広げるうえでとても有効な手段の一つ**です。たとえ翻訳機や外国語が話せる人がそばにいなくても、自分でなんとかできる語学力があれば、ビジネスでもプライベートにおいても外国人と意見交換ができ、視野が広がります。

外国語のより良い学び方について、TED Talksに投稿されたプレゼン動画鑑賞後に参加者同士が5～6人のグループになり英語でのディスカッションが行われました。BBT大学のアビー教授がファシリテータとなり、ディスカッション後は全体で意見交換が行われました。

テーマ1:One Simple Method to Learn Any Language (https://www.youtube.com/watch?v=G1RRbupCxiQ)

ネイティブスピーカー2名による外国語のシンプルな習得方法についてのプレゼンテーションの動画

テーマ2:Simple English for Everyone (https://www.youtube.com/watch?v=9px-cLAU9p0&t=8s)

日本人のプレゼンター(翻訳者)によるシンプルに英語を話すことを薦める動画

テーマ3:How to learn any language in six months (https://www.youtube.com/watch?v=3COMx3BOSQQ)

ネイティブスピーカーによる心理学を語学学習プロセスに応用して外国語を半年間で習得するポイントを解説する動画

EFについて(イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社)

1965年に『Education First (教育を第一に)』をモットーにスウェーデンで設立したイー・エフ・エデュケーション・ファーストは、2万人を超える講師を含む、従業員4万6500人を有する世界最大規模の私立教育機関です。現在、世界各地に500を超える事業拠点、および19か国(9言語に対応)に50校の直営語学学校を有し、語学留学プログラム等、グローバルに教育事業を展開しています。EFでは、第二言語習得における学習研究にも注力し、各地の大学と共同研究を進めるほか、独自の英語能力テストや英語能力指数、学習ツールの開発・提供にも努めています。また、50年以上にわたり蓄積されたノウハウをベースに、国内外で様々な教育機関、官公庁、自治体、企業に対する語学トレーニング支援事業も行っています。